

平成29年度 第2回学校関係者評価委員会兼学校活性化対策委員会 報告

1 日 時；平成30年2月22日（木）15：15～16：45

2 会 場；本校視聴覚室

3 出会者；学校関係者評価委員兼学校活性化委員 6名，本校職員 19名

4 内容

(1) 開会の言葉

(2) 校長あいさつ

(3) 本年度の活動状況等について（各課程より）

※第1回学校関係者評価委員会で確認した各課程・各部の「今年度の重点目標及び具体的な取組」反省等を踏まえて今年度の活動状況と次年度に向けた課題について報告する。

(4) 学校評価アンケート結果報告（各課程より）

(5) 質疑・意見交換

(6) 閉会の言葉

5 協議

- ・ ラジオ番組に開陽高校がよく出てきており，そういったことが希望者増につながっていると思われる。積極的に売り込んでいい。
- ・ 開陽高校がMBCの番組にたくさん取り上げられたことで県民に対する認知度も上がった。メディアの力は大きい。
- ・ 広報活動の一環として，今後とも報道機関への学校情報の発信を続けてもらいたい。
- ・ 普通科の入学希望者が定員を超えたのは良かった。ただ，オフィス情報科・福祉科が定員割れしていることは気になる。
- ・ 定員割れは解消すべきだが，少人数で学級編成すると生徒への目配り・気配りがし易いというようなメリットもある。
- ・ 中学校での学校説明会は1校あたり12～15分の割り当てなので，単位制のシステムや三課程それぞれの学科の内容等を説明するには時間が短い。学校説明会では本校の特色等を中学生に十分伝え切れていないので，電話で学校に問い合わせるか，直接学校に来てもらい説明を聞いて見学してほしいということを強調している。
- ・ 『木ノ下川クリーン作戦』は天候不良等により出来なかったが，別の日にPTAが中心となり生徒会などに上流の清掃等をお願いした。
- ・ 盲学校の避難訓練の誘導や西谷山祭りへの参加（生徒と先生）などの活動は，地域で好評を得ている。
- ・ 西谷山夏祭りのステージの背景を開陽高校美術部が担当してくれた。本当にありがたかった。平成30年の西谷山夏祭りは8月4日を予定しているが，また開陽高校の参加をお願いしたい。

- ・ 開陽高校はこの地域の他の高校に比べて新しいが、地域と良くつながっている印象がある。
- ・ 西谷山地区の中2（14歳）の立志式で、書道の川路先生が講演されて好評だった。
- ・ 個性を活かした生徒のいろんな成果を示した横断幕がフェンスに増えていくと嬉しい。
- ・ 通信制の生徒の中には、ゴルフの九州大会で優勝したりサーフィンの世界大会に出場するなど自分の個性を活かして活躍しているものもいる。通信制だからこそ活かされる生徒もいることをもっとアピールしたい。
- ・ 公然わいせつなどの事案が、ときどき永田川付近であるとは聞いている。声かけやカメラを向けられたなどの事案も発生しているので、被害にあったらスマホなどですぐに警察へ連絡をしてほしい。
- ・ 生徒がかかえるものが複雑になっているのだろうと思う。この学校に入学した当初は、単位修得・卒業が目標だった生徒も多いと思うが、これからは卒業したその先はどこに行きつくのか？を考えさせなければいけないと思う。
- ・ 進路学習やインターンシップなど社会とのつながりを大事にして、就労支援につなげてほしい。
- ・ 特殊な事情（難病関係、院内学習）で単位を認めるといった事例はない。全日制・定時制とも毎日学校に通学することが原則、通信制もスクーリングが前・後期それぞれ8回ある。
- ・ 全県的に商業科が定員に余裕があるとか就職率の高い電気科等が定員割れだということを親が知らないし子どもの意識も低い。
- ・ いい意味ではじめてほしい。不登校だった子が学校に来るとするのは、何か仕掛けがあるはずなので、そこに定員充足のヒントがある。
- ・ 「勉強って、何だよ！」と言う生徒に対して細やかに対応していただければ、ありがたい。
- ・ 通信制では、学力に自信が無い、学習のやり方が分からないなど学習することに困難を感じている生徒に対して、学ぶことの喜びを感じながら基礎学力の定着を目的とした学び直しのためのベーシックスタディ教室を後期より実施した。教材は一人一人に合わせている。
- ・ 不登校等の理由で、基礎学力が定着しておらず、自学・自習でレポート作成をしなければならない生徒にとって、ベーシックスタディ教室が始まったことはありがたい。
- ・ せっかく入学したから、一緒に頑張ろうよ！と親御さんにも声かけをお願いしたい
- ・ 開陽高校の生徒だと思うが、夕方、道に広がって歩いている。気を付けて歩いてもらいたい。
- ・ 鹿児島市PTA連合会主催の情報端末機器に関する標語・ポスターコンクールでは生徒2名が優秀賞を受賞した。PTA新聞も2年連続優秀賞をいただいた。